

Gmailを使ったさまざまな試み

GmailはそもそもGoogleのユーザに技術者が多いことや、その使い方も技術者指向なことから、実際のユーザにも技術者が多いのが特徴です。そのためユーザには単にGoogleが提供した「メールの送受信」という枠にとらわれず、さまざまな使い方を試みる人がたくさんいます。

■さまざまな使い方

すでに紹介したストレージとしての使い方以外にも、さまざまな使い方をするための方法やツールがWeb上に公開されています。

たとえばGmailがPDFやMicrosoft Word, Excelといったファイルを添付するとそこからテキストを抽出してHTMLとして表示してくれることを利用して、テキスト変換ツールとして利用したり、GmailにMP3ファイルを保存しておいてそれを直接再生したり、RSSを読み込んでそれぞれのエントリをメールとしてGmailに送ることで、GmailをRSSリーダーにしてしまうツールもいくつも存在しています。

また、Gmailの機能にプログラムから簡単にアクセスするためのAPIである「Gmail API」もオープンソースで開発されるなど、さまざまな試みが行われています。

●Gmail API

<http://sourceforge.net/projects/gmail-api/>

まとめ：Gmailの今後

ここまで見てきたとおり、GmailはGoogleらしいさまざまな特徴を持ったユニークなメールサービスですが、ロゴの横に「beta」とあることからわかるように、まだまだ未完成であるという位置付けにあり、現在もどんどん改良が加えられています。最近でも「Gmail mobile」として携帯電話に対応したり、Google Talkと統合が行われたりと、バージョンアップを繰り返しています。

■新サービスは英語版から

Gmailの新機能は、他のGoogleのサービスと同様に、まず英語版から実装されることが多くなっています。たとえば現在、Gmailの画面上にRSSの情報を表示するWeb Clipという機能が英語版のみで提供されています。

英語版の機能を使うには、単に設定で仕様言語を英語にするだけです。この場合でもメールの内容自体は日本語も問題なく表示できるので、新しい機能をいち早く利用したいのであれば、英語に設定しておくといいでしょう。

GmailはこれからもGoogleが提供する他のサービスとの連携を強化するなど、さまざまな機能を打ち出してくると思われます。今後が非常に楽しみなサービスの1つだと言えます。

ちなみに、Gmailはこれまでも4月1日に容量アップなどを行っています。2006年4月1日に何かを行う予定なのかは現在（2006年3月末時点）はわかりませんが、本稿が掲載される際にはすでに何らかの新機能が登場しているかもしれません。SD

Column

イギリスとドイツに在住する人がGmailの登録を行うと、「@gmail.com」ではなく「@googlemail.com」というドメインのアドレスが提供されます。これはドイツとイギリスですでに「Gmail」という名前が商標登録されていたためです。

GmailとGoogleMail

ただし「gmail.com」と「googlemail.com」はどちらも内部的には同じアカウントとして扱われているので、たとえば「ichiro.yamada@gmail.com」を取得しているのであれば、「ichiro.yamada@googlemail.com」宛に送られたメールも受け取ることが可能です。